

例(吉武ら, 2011)しか知られていなかった。今回確認されたのは、府中および江戸川からの土生自身による採集例で、いずれも中根猛彦コレクション中の標本である。これらの標本は、中根コレクションに入る前には矢野由雄氏のコレクションに収まっていたため、矢野コレクションのラベルが付されていた。

本種は、2012年に公表され(環境省自然環境局野生生物課, 2012)、2019年までに数回の改訂を経た第4次環境省レッドリスト(環境省自然環境局野生生物課, 2019。以下、「環境省RL」と省略)では準絶滅危惧、東京都本土部のレッドデータブック(東京都環境局自然環境課, 2013)でも準絶滅危惧のランクで掲載されている。

戦前の確認例しかないため、東京都からの再発見はかなり困難と予想される。ただし、丘陵地や低山地、島嶼部は調査不足のため可能性が皆無ではないと思われる。なお、本種のタイプ産地は長崎である。

2. アオヘリアオゴミムシ *Chlaenius* (*Amblygenius*) *praefectus* Bates, 1873

1♂, 1性別未確認, Ogikubo, 22. IV. 1923, 国立科学博物館所蔵。

記録が見当たらなかったため東京都からは初記録となる。ラベルに採集者氏名などの詳細情報はない。“Ogikubo”は現在の杉並区荻窪のことと考えられる。性別未確認の個体には、ラベルをつけた人物が未記載種と考えたためか肉筆で新学名が記述され、和名も「oh-tsuya-kiberi」と記されていた。

本種は環境省RLに絶滅危惧IA類のランクで掲載されており、各地で衰退が著しいと考えられている。比較的大型のアオゴミムシ類で、灯火にも飛来するにもかかわらず、100年近く東京都からは採集例がなく、東京都からはすでに絶滅したと推測される。本種もタイプ産地は長崎である。

3. ツヤキベリアオゴミムシ *Chlaenius* (*Chlaenites*) *spoliatus motschulskyi* Andrewes, 1928

2♂♂, Tamagawa, Tokyo, 5. VI. 1934, A. Yoshida ; 1♀, ditto, 22. VIII. 1934, A. Yoshida, 以上、北海道大学総合博物館所蔵。

本種も東京都からは初記録になると思われる。多摩川産である。採集者は吉田晶氏と考えられ、また、これらの標本にも矢野由雄氏のコレクションラベル

が付されていた。当時、二人に親交があったことは上野(2004)もふれている。

本種は環境省RLに絶滅危惧II類のランクで掲載されているが、残念ながら東京都からはすでに絶滅した可能性がきわめて高い。

日本初記録はBates(1873)による大阪産2個体にもとづく報告で、*Chlaenius spoliatus* var. *nicanus* Motschulsky, 1864の名のもとに記録され、その後、Andrewes(1928)は日本産を含む個体群に置換名を与えた。

なお、本研究の一部は、国立科学博物館のコレクションビルディングフェローシップ制度の助成を受けている。受け入れ先の神保宇嗣博士と野村周平博士に厚くお礼申し上げる。

末筆ながら、標本調査に協力してくださった北海道大学総合博物館の大原昌宏博士に心よりお礼申し上げます。

引用文献

- Andrewes, H. E., 1928. On the types of oriental Carabidae described by V. de Motschulsky. The Transactions of the Entomological Society of London, 76: 1-24.
- Bates, H. W., 1873. On the geoadephagous Coleoptera of Japan. The Transactions of the Entomological Society of London, 1873: 219-322.
- 環境省自然環境局野生生物課, 2012. 報道発表資料, 平成24年8月28日, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ). (<https://www.env.go.jp/press/15619.html>) 2020年2月26日閲覧。
- 環境省自然環境局野生生物課, 2019. 報道発表資料, 平成31年1月24日, 第4次レッドリストの公表について(お知らせ). (<https://www.env.go.jp/press/106383.html>) 2020年3月10日閲覧。
- 東京都環境局自然環境課, 2013. レッドデータブック東京2013～東京都の保護上重要な野生生物種(本土部)解説版～. 655 pp.
- 上野俊一, 2004. 吉田晶さんのご逝去を悼む。甲虫ニュース, (146): 6-7.
- 吉武 啓・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 農業環境技術研究所所蔵の土生廻申コレクション(昆虫綱: コウチュウ目: オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所報告, (28): 1-327.

(亀澤 洋 (株) 環境指標生物)
(佐藤諒一 北海道大学農学部昆虫体系学教室)
(菅谷和希 (株) 環境指標生物)

【短報】千葉県において採集されたマルヒラタガムシの記録

マルヒラタガムシ *Enochrus subsignatus* (Harold, 1877) は国内では本州・四国・九州・南西諸島に分布し、植物が豊富な止水域に生息する小型の水



図1. 山武郡横芝光町産マルヒラタガムシ。



図2. 大網白里市産マルヒラタガムシ。

生甲虫である(中島ら, 2020)。環境省レッドリスト(環境省, 2020)において準絶滅危惧種に選定されており, 千葉県レッドリスト(千葉県レッドデータ改訂委員会, 2019)では最重要保護生物(環境省版レッドリスト基準の絶滅危惧IA類相当)に選定されている。千葉県ではこれまで富津市富津岬(山崎, 1962,

1999), 富山町【現: 南房総市】, 鴨川市江見地区(矢島, 1969; 山崎, 1999)の記録のみで, 1960年代以降の正式な採集記録は報告されていない。

筆者らは, 千葉県山武郡横芝光町および大網白里市において本種を確認したので, 千葉県内の新分布および1960年代以来の貴重な記録としてここに報告する。

5 exs., 千葉県山武郡横芝光町宮川, 13. VIII. 2018, 山崎採集, 保管。

1 ex., 同地, 16. IX. 2019, 山崎採集, 内田保管(図1)。

5 exs., 千葉県大網白里市下ヶ傍示, 16. IX. 2019, 内田・山崎採集, 保管(図2)。

横芝光町の採集地は, 岸際にヨシやマコモといった抽水植物, 水域内にはヒシ等の浮葉植物が繁茂する中規模のため池であり, 同所的にコツブゲンゴロウ *Noterus japonicus* Sharp, 1873, シマケシゲンゴロウ *Hygrotrus chinensis* (Sharp, 1882), エサキアメンボ *Limnoporus esakii* (Miyamoto, 1958) 等が見られた。本水域では, 採集個体以外にも多くの個体を確認しており, 安定して生息していると考えられる。

大網白里市の採集地も, 横芝光町の地点と同様に岸際にマコモ等の抽水植物が生育する中規模のため池であり, 本水域内にはアカウキクサ属が水面を広く覆っていた。同所的にヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825), キイロヒラタガムシ *E. simulans* (Sharp, 1873) 等が見られた。

末筆ではあるが, 筑波大学大学院生命環境科学研究科の松島良介氏には本種を確認する上でご協力いただいた。古旗峻一氏には本種の採集にご協力いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 千葉県レッドデータブック改定委員会, 2019. 千葉県の保護上重要な野生動物—千葉県レッドリスト動物編. 2019年改訂版. http://www.bdcchiba.jp/endangered/endang_index.html (2020年2月6日参照)。
環境省自然環境局野生生物課少種保全推進室, 2020. 環境省レッドリスト 2020. <http://www.env.go.jp/press/files/jp/113667.pdf> (2020年3月29日参照)。
中島 淳・林 成多・石田和男・北野 忠・吉富博之, 2020. 日本の水生昆虫. 351 pp. 文一総合出版, 東京。
矢島民夫, 1969. 千葉県南部採集目録. 千葉県動物基礎資料 8, pp. 19–48. 千葉県生物学会。
山崎秀雄, 1962. 富津海岸の鞘翅目. 千葉県動物誌基礎資料 1. 二部, pp. 46–47. 千葉県生物学会。
山崎秀雄, 1999. 千葉県の鞘翅目. 千葉県動物誌, pp. 614–713. 文一総合出版, 東京。

(山崎 駿 263–8522 千葉市稲毛区弥生町 1–33
千葉大学理学部化学科)

(内田大貴 188–0011 西東京市田無町 3–10–9
特定非営利活動法人 NPObirth 自然環境マネジメント部)

【短報】ショウリョウヒゲブトハネカクシの関東地方からの記録

ショウリョウヒゲブトハネカクシ *Creochara brevipennis* (Bernhauer, 1903) は, 日本最大級のヒゲブトハネカクシの一種である。形態については Maruyama (2004) に詳しい。なお, 属は「旧北区カタログ」の2015年の増補改訂版では *Tetrasticta* が使用されている。Pace (2010) が *Creochara* を *Tetrasticta* の下位シノニムにしたためである。ただし, Yamamoto



図1. ショウリョウヒゲブトハネカクシ²⁾(千葉県南房総市産)。